

# 宗教の自由制限に憂慮

## 日弁連・意見書めぐりシンポ

**明治学院 大学教授 マーク・マリンス氏**

日本においては、個人と国家との関係が、宗教の自由と個人の権利をめぐって、重要な問題となっている。特に、個人としての権利と、個人としての責任との関係が、重要な問題となっている。この点から、宗教の自由と個人の権利との関係が、重要な問題となっている。



日弁連の意見書をめぐって開催された「宗教の自由と個人の権利」に関するシンポジウム。左から、日弁連事務局長の佐々木幹夫、明治学院大学学長の阿部美哉氏、明治学院大学教授のマーク・マリンス氏。



**大学院長 阿部美哉氏**

「オウム真理教事件が、宗教の自由と個人の権利をめぐって、重要な問題となっている。特に、個人としての権利と、個人としての責任との関係が、重要な問題となっている。この点から、宗教の自由と個人の権利との関係が、重要な問題となっている。」

# 詐欺と宗教を混同

## 服従、貞潔、清貧が宗教の本質

「宗教の本質は、服従、貞潔、清貧である。それ以外のものは、詐欺である。宗教の本質は、服従、貞潔、清貧である。それ以外のものは、詐欺である。」



役員 日本委員

# 被害者の自己書

「被害者の自己書」は、一九九五年三月、中央宗教研究所の調査報告書である。この報告書は、被害者の自己書に基づいて、宗教の自由と個人の権利との関係が、重要な問題となっていることを示している。

# 宗教ジャーナリスト 室生忠氏

「宗教ジャーナリストの室生忠氏は、宗教の自由と個人の権利との関係が、重要な問題となっていることを示している。特に、個人としての権利と、個人としての責任との関係が、重要な問題となっている。」

# 政治的に

「政治的に宗教の自由と個人の権利の問題が扱われることは、民主主義の原則に反する。宗教の自由と個人の権利の問題は、政治的に扱われるべきではない。」